

# 農福連携促進事業（施設外就労農業体験事業） の進捗について

平成30年11月14日  
燕市障がい者自立支援協議会



## 事業化の背景

障がい者の就労については、自立することが目標としてあり、その目標を達成するために、その人らしい特性を生かした働く場の確保や工賃向上が必要となります。しかし、まだ十分とは言えない現状があります。

また、農業分野においては、高齢化や担い手不足による慢性的な人手不足状態となっており、人材の確保が課題となっています。

そのような障がい分野、農業分野両方の課題を解決できるきっかけを作れるような事業を検討しようということになりました。



## 事業化までの経過

### <農業事業者を取り巻く現状>

すでに新潟県の農作業受託サポーター配置事業(※)がある。しかし、現状では県央地域に農業事業者側のサポーターはいない。

### <福祉事業所を取り巻く現状>

農業事業者との面識が薄く、作業内容も詳しくは分からず、なかなか手を出しにくい。しかし、利用者の特性を生かした場の提供や工賃向上は図りたい。ただし、現在行っている作業との調整を図る必要がある。

⇒農業事業者、福祉事業者両者のニーズが実際にどの程度あるのかが現状では不明瞭

⇒既存の福祉のスキームで取り組みやすそうな施設外就労の形態でのマッチングは？

⇒施設外就労農業体験事業の事業化

※新潟県の農作業受託サポーター配置事業・・・作業指導を行う農家(サポーター)に対して一定期間謝礼を支払うことで「連携のきっかけ」としてもらおう事業(作業支援1時間当たり2千円。上限1件約2万円/月。期間:初回登録日から2年間)ただし、B型福祉事業所が対象。

# 施設外就労農業体験事業



燕市

【委託契約】  
② 体験事業

⑥ 委託料支払

- ◆施設外就労農業体験事業委託料
- 【1】体験講師謝金相当（農業技術に係る助言指導）  
⇒農業事業者へ2,000円（1時間）
- 【2】作業工賃相当（事業所の農作業委託費）  
⇒障がい者へ1時間1人あたり782円（最低賃金）

③ 障がい者の派遣【契約】



農業事業者

① 事前マッチング ※市が調整



福祉事業所

④ 作業

⑤ 助言・指導

⑦ 委託料支払

【2】の支払

⑧ 作業工賃支払

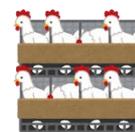


障がい者  
（障がい者3人＋福祉事業所職員1名程度が支援者として付添）





## 施設外就労農業体験事業実施結果



| 実施期間                  | 農業事業者                | 福祉事業所                     | 作業者<br>(延べ) | 主な作業内容                    |
|-----------------------|----------------------|---------------------------|-------------|---------------------------|
| 8/28～<br>9/13<br>計6日間 | 本町そ菜出荷組合<br>(4農業事業者) | 燕市社会福祉協議会<br>就労支援センター(B型) | 12人         | きゅうりの箱折、きゅうりの下葉処理         |
|                       |                      | ねむの木工房(B型)                | 6人          |                           |
| 9/26～28<br>計3日間       | (有)ツバメファーム           | 燕市社会福祉協議会<br>就労支援センター(A型) | 9人          | 集卵、選別、鶏舎掃除                |
| 10/9～19<br>計9日間       | 小杉農園                 | あったかハート(A型)               | 12人         | 柿・梨の収穫・選別、<br>梨のドライフルーツ作り |
|                       |                      | ワークセンターやすらぎ(B型)           | 15人         |                           |

延べ54人が体験



## 施設外就労農業体験事業を通しての福祉事業所の感想

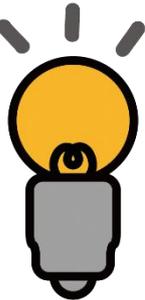
| 区分    | 感想   |
|-------|--|
| 良かった点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者の新たな一面が発見できた。(環境、順応性、集中力、体力、課題)</li> <li>◆ふれあい、あいさつを交わし、地域社会とのつながりの大切さを感じた。</li> <li>◆利用者が仕事への責任感を実感できた。</li> <li>◆利用者の「またやりたい」という意欲が見られた。</li> <li>◆適する作業であれば障がいのある人が活躍できると農業事業者に知ってもらえた。</li> <li>◆工賃向上につながった。</li> </ul> |
| 反省点   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆もっと作業時間の工夫できればよかった。<br/>(利用者の体力面、事業所の利用時間面から3時間より2時間程度が適当。<br/>夏場の農作業稼働時間と事業所開所時間との調整)</li> <li>◆もっと作業面積の事前リサーチできればよかった。<br/>(作業場面が離れた際、職員が利用者の把握や支援が困難)</li> <li>◆もっと天候等で当日作業メニュー変更への対処ができればよかった。</li> </ul>                  |



## 施設外就労農業体験事業を通しての農業事業者の感想(抜粋)

| 区分       | 感想  |
|----------|---|
| 良かった点    | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆想像していた以上に丁寧に作業をしていただいた。</li> <li>◆どんな形が良いかはまだ分からないが、また作業をお願いしたい。</li> <li>◆職員も付き添ってくれるため、1回説明すれば指導の負担感は少なくて済む。</li> </ul> |
| 課題だと思った点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆事業所の都合もあり、例えば毎日の作業や繁忙期の長時間作業をお願いするのは難しいと思う。</li> <li>◆作業によって報酬に見合う作業量は任せられない事業所もあると思う。</li> </ul>                         |

## 農作業施設外就労を今後も継続していくために 参加事業所として取り組みそうなこと

- 
- ◆今回つながった農業事業者とのつながりの継続
  - ◆どの利用者もできるような作業を切り出す努力と調整（例：単価設定の工夫など）
  - ◆他の請負作業との余裕を持った調整
  - ◆詳細な連絡が密に取れる関係づくり（例：雨天時の作業変更など）
  - ◆より具体的な事前打合せ  
（作業内容・時期・時間、休憩方法、晴天・雨天時作業のパッケージ化の工夫など）
  - ◆組合単位などの仕事を請け負う場合のアイデア出しと調整  
（集会所などの拠点確保や福祉事業所複数での請負など）

## 福祉事業所から出た農福連携促進のアイデア

- ◆農業事業者目線での作業切り出しのアイデア出しのため  
福祉事業所見学ツアー開催はどうか
- ◆顔のつながった農業事業者の生産物の加工販売、  
食材としての使用、販売会の手伝いなどできないか
- ◆農業事業者側が依頼したい作業を集約  
＋福祉事業所で請負可能かを精査する仕組み作りはできないか
- ◆農作業依頼が増えてきた場合の複数事業所での請負ができる  
窓口の検討はできないか



## 講演会・報告会の開催(予定)

先進地のお話や福祉分野と農業分野の意見もお聞きしながら、次年度の農福連携促進のあり方を検討していきます。

# 農業 × 福祉

案

## 農福連携促進講演会 ・体験報告会

燕市では、農業分野の人手不足解消と、障がいのある人の就労の確保、工賃向上に向け、“農業”と“福祉”の連携を進める『農福連携』を取り組み始めました。今年、市内の3つの農業者から協力いただき、障がいのある人が施設の外で農作業を行いました。

講演・報告会で、農業×福祉の可能性を一緒に考えてみませんか？

12月20日(木) 13:30～15:00

受付13:00～

※終了時間が前後する場合がございます。

燕市役所1F つばめホール

参加費 無料 定員 60名 締切 12月14日

第1部

「農福連携の歩みと“これから”」

講師: 平林 正樹

(新潟市障がい者あぐりサポートセンター センター長)

13:40～14:10

第2部

「体験報告会」

報告者: 燕市施設外就労農業体験事業に参加した福祉事業者、農業関係者

15:10～15:50

お申込み 燕市 社会福祉課 障がい福祉係  
お問い合わせ 電話 0256-77-8171

主催 燕市

